

Campus Today



良心と尊厳をもって医療への貢献誓う

歯学部・大学院 卒業証書並びに学位記授与式

2023年度松本歯科大学の卒業証書並びに学位記授与式が2月1日(木)、本館7階講堂で挙行された。黒い角帽にガウンをまとった歯学部卒業生51人および大学院歯学独立研究科の修士生(博士学位取得者)6人、合わせて57人が式に臨み、厳かな雰囲気の中で、列席した保護者や法人役員、教員らが門出を祝福した。

校歌「あ、渺々の蒼穹に」静聴の後、に研鑽して他人には負けないという自挨拶に立った矢ヶ崎雅理事長は「卒業だけの武器を持ち、立派な歯科医師、業おめでとう。よく頑張ってくれて嬉 励した。また、創立者・矢ヶ崎康博 士と歩んだ大学創立までの燃えるよう ばかりですが、これからの10年、さら



歯学部卒業生を代表して誓いの言葉を述べる前田風華さん

歯科大学の卒業生という誇りを胸に、建学の理念を忘れず、共に歩んでいきましょう。皆さんは一粒の種ですが、やがて芽が出て、大樹となる。日本はもとより、台湾、中国、韓国など世界各地に根をおろし、本学の卒業生がリーダーシップを取



祝辞を述べる飯島内閣官房参与

ってアジアの歯科界を牽引してほしい」と、世界に羽ばたく卒業生たちの前途を祝福した。続いて、来賓として内閣官房参与で本学常務理事の飯島勲特命教授が祝辞を述べた。超高齢社会に直面する我が国の実情を話し、「口腔の健康は全身の健康につながるものであり、その重要性はますます高まっています。歯科界の変化に敏感に対応し、国民の健康を守るため

に研鑽し、新しい時代を切り開いてほしい。今年は辰年にあたり、辰(龍)は飛躍の象徴でもあります。皆さんの飛躍を期待しています」と、はなむけの言葉を贈られた。

在学生たちの祝福を受け 思い出と恩師の教を胸に旅立ち 卒業祝賀会・謝恩会

卒業式終了後は、図書会館1階の特設会場において卒業祝賀会・謝恩会が催された。

会は卒業生の中村葵さんの司会で進行し、学年委員長の松浦宏季君が「学生一人ひとりに、ときには厳しく、そして優しく指導してくださいました先生方、陰で支えてくれた家族に感謝します」と挨拶した後、飯島内閣官房参与の音頭で乾杯した。

卒業生を代表して小嶋嘉子さんは「先生方の教を忘れず、充実した6年間の思い出を胸に

授与式は、大須賀直人学生部長の司会、中村浩彰教務部長の呼名により卒業生が一人ずつ登場。宇田川信之歯学部長から、国立印刷局謹製の卒業証書を授与された歯学部卒業生は、自ら精進します」と御礼の言葉を述べ、活躍を誓った。

在学生によるアトラクションでは、第2学年の上條晃生君がマリンバを演奏し、先輩たちの卒業を祝福した。恒例の校歌斉唱は、解剖学講座・金銅英二教授のオルガン伴奏に合わせ、第3学年の清水崇敏君指揮のもと、在学生有志(第3学年・新保光生君、横川勝護君、小林秀悟君、野崎優君、第2学年・木ノ島旺君、小林俊介君、第1学年・中島駿翔君、丸山颯野君、御手洗有君)で編成された合唱隊による歌が披露された。卒業生の渡邊悠太君も得意のパークアッションで参加し、演奏を盛り上げた。

また、6年間の学生生活を振り返るスライドや動画がスクリーンに映し出された。当日の卒業式の様子を撮影した動画も急遽編集され、卒業生は感慨に浸っていた。



卒業を喜び飛躍を誓う参加者たち

の手で角帽のタッセルを右側から左側に移した。左側のタッセルは卒業と歯科医学分野における学位取得を意味する。

大学院修士生には平岡行博歯学独立研究科長から学位記が手渡された。次に、歯学部の学業成績優秀者に与えられる矢ヶ崎康特別賞をはじめ、活動賞、皆勤賞など各賞の表彰が行われた。

卒業生を代表して前田風華さんは、「諸先生方のご指導を受け、臨床歯科医学の基礎を築くことができました。そしてかけがえない友人たちと勉学に励

んだ時間はとても有意義で、このうえなく幸せなものでした。支えてくださった多くの皆様のご厚恩は決して忘れません」と感謝の言葉を述べた。

さらに「私たちのゴールは歯科医師となつて、社会に貢献することです。その根底にあるのは、良き歯科医師である前に良き人間であれ」という本学の教育方針です。心優しく、良心と尊厳を持って医療に従事し、生涯学習を怠らず日々研鑽していくことを決意いたします」と、力強く誓った。

偏向報道に喝！君は、総理のXを見たか？

内閣官房参事
松本歯科大学常務理事 飯島 勲
特命教授

今月号は『プレジデント』3月15日号「リーダーの掟 飯島 勲」より、選挙事務所の実情と内閣の真実がわかる岸田首相のXについての記事を要約して紹介します。

現在、国会は年度内の予算成立に向けて、与野党の白熱した議論が行われているべき時期なのに、野党の質問は自民党の政治資金パーティー問題と盛山正仁文部科学相と旧統一教会の関係に終始している。質問に立つ議員が自分自身で調査した結果を大臣につけるならまだいいが、報道の内容をそのまま読み上げていただけだ。しかも、ほぼ同じ内容の質問ばかり。貴重な審議時間がもったいないと思う。

一般の国民のみならずにしてみたら、盛山大臣の「記憶にない」「写真があるのだったら会っているのかもしれない」「推薦状の数が多くてわからない」

こういう状況の中で、候補者本人が事務所に来る人全員を把握することなど不可能だ。特に選挙中は、とにかく多くの人と握手を交わし、カメラ向けられたら、こやかに写真におさまる。それは候補者としてごく当たり前の行動だから、何年後に知らない人との記念写真が出てくることは珍しくない。



街頭演説の様子をXに投稿

このように、選挙という特殊な環境では、候補者に一般的な記憶力を求めるのは酷だと思える。しかも、盛山大臣はその後の調査で、旧統一教会との関係は断ち切っているという。野党とはいえ、選挙中の状況を理解しているはずの議員が重箱の隅をつつくような質問を繰り返すのは残念だと思える。

選挙中の状況を知っていれば、盛山大臣を更迭しないという岸田文雄首相の判断は十分に理解できるだろう。政治に批判的な目を向けて監

視するのは報道機関の役目の一つである。しかし、日本の報道機関は政権批判を重視するあまり、国民の生活に有益な岸田内閣の情報を伝えることがおろそかになっていないだろうか。私はこの連載で「岸田内閣の真実を伝える語り部が必要だ」と何度も訴えてきた。私は最近、岸田首相のX（旧ツイッター）が、その語り部の役割を果たしていることに気づいた。

選挙中の状況を知っていれば、盛山大臣を更迭しないという岸田文雄首相の判断は十分に理解できるだろう。政治に批判的な目を向けて監

衛生学院が新年度から 入学定員を100人に



4月からさらに多くの学生を受け入れていく衛生学院

松本歯科大学衛生学院は2024年度から、現在50人の入学定員を100人に増やす。全国的に歯科衛生士が不足している状況や地元歯科医師団体などからの要望を踏まえ、現場で即戦力として活躍できる優秀な人材をより多く育成していく。衛生学院が県に提出していた入学定員変更申請が1月19日付

で承認され、決定した。入学定員が100人の歯科衛生士養成機関は県内最大で、全国的にも最大規模となる。2024年度入学予定者は全5回を既に実施し、県内出身者を中心に、入学予定者が決定している。定員充足率は80%を超える見通しだ。

衛生学院は、社会に貢献できる歯科衛生士をより多く育成しようとしてきた。2022年度には入学定員を38人から50人に拡大し、さらに経済的な理由で歯科衛生士になる夢を断念することがないよう、学費も大幅に減額。入学金は12万円を1万円に、年間授業料は66万円を15万円とし、質の高い教育を維持しつつ、卒業までの3年間に学生が負担する学費を教科書や実習着等購入費などを加えても約83万円と全国最低水準に抑え、意欲ある人たちに広く門戸を開いてきた。新年度からの入学定員増もその一環で、歯科医療の重点が治療から予防に移りつつあり、今後も歯科衛生士の需要は高まる見込まれていることから、段階的に準備を進め、倍増に踏み切った。

定員増により2024年度の収容定員は200人、2025年度は250人、2026年度以降は300人となるため、衛生学院では施設の改修に取り組みしている。

2023年度の医療系大学間共用試験CBT（Computer Based Testing）本試験が、1月31日（水）に本学キャンパスイン101教室において実施され、第4学年生85人が受験した。

第4学年共用試験CBTを実施 臨床実習前に適正な評価を受ける



共用試験に臨む学生たち

共用試験は来年度から公的化され新共用試験としてスタートする。本年度はそれに向けたトライアルと位置付けられ、CBTも新しい要項に沿ってより厳格化された体制で実施された。Student Dentistの法的な裏付けがなされることで、診療参加型臨床実習が促進され、歯科医師の卒前卒後の一貫した養成システムが確立されることにより、社会に求められる歯科医師の育成へとつながることを期待したい。

「ムシ歯の洪水」と闘うには、その直接の被害者である子ども

60年前の歯科医療(13)

しかしながら、前回述べたように「ムシ歯の穴ふさぎ」は「賽の河原の石積み」でしかないことが誰の目にも明らかとなった時代にあつては、生活環境の中の食生活習慣の改善、歯口清掃の徹底といったホームケアと、リコールシステムによる定期的な保健指導と予防処置に、より重点が置かれなければならなかったのだ。

適切なホームケアの主役は当然のことながら子どもを育てる母親と家族であり、彼らには十分な知識が与えられるべきだ。また、リコールシステムでは、「予診」(実質的な定期診査)を行って、その結果を歯科医師の確認後に、必要な予防処置や保健指導を行う歯科衛生士が主役となる。

「子どもの歯を守る会」の結成が伝えられてきた。ただし、水道水のフッ素化が主目的のところもあつたが、お母さん方の希望もあつて、内容的にも講話だけではなく、歯科衛生士によるブラッシング指導、栄養士による「歯に良い食べ物」指導なども加わっていった。また乳幼児に対する歯科検診が制度化されてない時代だったので、検診とフッ素塗布についての要望も強く、いくつかの団地では地域婦人団体との共催という形で実施した。これは実費を頂戴したので、後日に地域の歯科医師会長から挨拶などはけしからんと、きついお叱りを蒙ったが、

こうした地域活動は「子どもを守る会」の機関紙「月刊守る会ニュース」に実用的な啓蒙記事などとともに掲載し、それなりの反響を得ることができた。この機関紙の編集作業もお母さん方の力によるところが大

創立者の「視点」



大学誌編集主任 特命教授 原 浩 笠

「ムシ歯の洪水」と闘う中で筆者が得た最大の教訓は、医療者の仕事は診療室の中だけでは絶対に完結しないということだ。鰯と化した歯は感染した歯質を完全に除去して、そこを充填しなければならぬし、それができるのは歯科医師だけだ。そこで、それまでの歯科医師たちが「治療は先生にまかせておけ。患者は余計なことおぼろげにやらないで」と威張っていたのも当然だったのだらう。歯科衛生士や歯科技工士などのスタッフも、先生の指示に従うだけの「お手伝い」に過ぎなかつたようだ。

たちを中心として、母親や家族、医療者、教育者、その他、子どもに関わる全ての人びとの理解と協力によるチームワークが絶対的に必要だったのである。そこで筆者は診療室からとび出すことにした。「子どもの歯を守る会」のお母さん方に呼び掛けて「保育所や幼稚園、地域集会などご希望があれば、お話しに参上します」ということになったのである。次々にお座敷が

台湾、中国の中学生らが来学し学内を見学 日本の大学について見聞広め歯科への興味深める



台中市立大里高級中学の一行と本学関係者

2024年に入り、台湾の台中市立大里高級中学と中国の上海市甘泉外国語中学校の生徒たちが相次いで、研修旅行の一環で本学を訪れた。学内の設備や病院の最新医療システムを見学したり学生食堂でランチを体験したり、日本の大学について見聞を広め、歯科医療への興味を深めた。

松本歯科大学の充実した教育環境を見学しようと、1、2月は海外から中高生の団体訪問が相次ぎ、1月31日(水)は、台湾の台中市立大里高級中学から、日本の高校1〜3年生に当たる年代の生徒30人と引率教員ら6人が研修目的で来学した。

30年記念棟で歓迎セレモニーを開いて、矢ヶ崎怜央主事らが歓迎。大里高級中学の張士峰学務主任は「生徒たちが将来を考える上で必ず役に立つと考え、訪問させていただいた」と話し、歓迎に感謝した。



診療室を見学する大里高級中学の生徒たち

本語や英語で自分たちの学校を紹介したりする時間もあつた。2月2日(金)は、中国の上海市甘泉外国語中学校の14〜16歳の生徒と教員約20人が、7泊8日の冬休み研修旅行の中で本学を訪れた。

両日とも、台湾出身で本学卒業生の歯科保存学講座・郭子揚診療助手が本学の特徴をスライドを使って説明し、蘇文恵、

謝宗霖両研修歯科医が学内を案内した。病院では、初診室の音響淳一教授が診療内容について説明し、生徒の口腔内細菌を採取して顕微鏡で観察する実習などもした。生徒たちは熱心に見学し、「キャンパスが広くてきれい」「病院の設備が優れている」と感想を話していた。海外から県内を訪れる中高生団体の受け入れの窓口の一つ、県観光機構によると、県内は台湾、中国を中心にシンガポール、

松本平ゼロカーボン・コンソーシアムの会員たち

脱炭素社会実現に向け本学ソーラーカーポートを視察

松本地域の産学官関係者で構成し、脱炭素社会の実現に向けた事業の創出や支援を目指して活動している団体「松本平ゼロカーボン・コンソーシアム」(会長・林靖人信州大学副学長)の会員ら約40人が2023年12月13日(水)、本学のソーラーカーポートを視察した。2022年に運用を始めた太陽光発電パネルを屋根にしたソーラーカーポートと関連設備を見て回り、再生可能なエネルギーの導入や活用の課題などを考えた。

最初に法人(総務) 李炳旭課長補佐と施工業者が、屋外の設備を案内して説明した。李課長補佐は、本学が継続的に実践してきた消費電力削減活動の一環で、創立50周年記念事業として整備したこと、発電装置と駐車場を一体化させることで学内外の多くの人の利便性が日常的に高まることなど、事業の目的や狙いを丁寧に伝えた。

本学では、X-Guideが導入されたことにより、インプラント埋入の際には「フリーハンド」「サージカルガイドプレート」「3Dダイナミックナビゲーションシステム」の3つの手法から選択可能になりました。選択肢が広がり、より患者様のニーズに応えた治療を行うことが可能となりました。



ソーラーカーポートを視察した会員たち

学業成績・学術文化活動等を称えて 歯学部卒業生12名が栄誉の受賞

2023年度松本歯科大学卒業証書並びに学位記授与式においては、学業や文化活動で優れた成績や取り組みをみせた歯学部卒業生を称えて表彰も行われた。学業成績優秀者に矢ヶ崎康特別賞(1名)、矢ヶ崎康賞(3名)、また文化活動等で顕著な活躍をした者に活動賞(6名)が贈られ、あわせて皆勤賞(3名)と精勤賞(7名)がそれぞれに贈られた。

表彰を受けたのは次の皆さん。(敬称略)

- 【矢ヶ崎康特別賞】(歯学部学生表彰規定第4条 各学年において学業成績が平均点90点以上で、人物ともに優れた者) 前田風華
- 【矢ヶ崎康賞】(歯学部学生表彰規定第5条 在学期間の平均点80点以上の者) 松浦宏季、小嶋嘉子、富士本圭宏
- 【活動賞】(歯学部学生表彰規定第8条 第47回卒業準備委員会) 松浦宏季(委員長)
- 【皆勤賞】(歯学部学生表彰規定第9条 最短修業年限及びこれに準じ無欠席で卒業した者) 前田風華、矢野目早史、林芷萱
- 【精勤賞】(歯学部学生表彰規定第9条 欠席日数が3日以内であった者) 葛上瑄、黄廷軒、小嶋嘉子、鍾宜琴、中村葵、富士本圭宏、松浦宏季

病院だより vol.56

インプラント 3Dダイナミック ナビゲーションシステム

松本歯科大学病院補綴科は、樋口大輔科長のもと計17人の歯科医師が勤務しています。近年のデジタル技術の発展に伴い、デジタルデンティストリーも急速な勢いで技術革新が進んでおりますが、補綴の分野は特にその恩恵を受けていると言っても過言ではありません。

今回は、2023年4月に導入されたインプラント3DダイナミックナビゲーションシステムであるX-Guide R(ノーベルバイオケア社製)をご紹介します。



X-Guide を用いたインプラント埋入

「フリーハンド」「サージカルガイドプレート」「3Dダイナミックナビゲーションシステム」の3つの方法があります。「フリーハンド」とは、特殊な器具・装置を用いずにインプラントを埋入

ルバイオケア社製)をご紹介します。インプラント治療を行うにあたっては、骨の状態だけでなく、隣在歯や対合歯との位置関係を考慮して理想的な補綴を可能とする部位を検討してインプラント埋入部位を決定する、いわゆる「トップダウントリートメント」を行うことが必要不可欠です。そのために、術前に様々な検査を行い埋入位置を決定しますが、X-Guideはその決定した位置にインプラントを埋入することを実現するための装置です。

インプラントを埋入する一次手術の方法には、「フリーハンド」「サージカルガイドプレート」「3Dダイナミックナビゲーションシステム」の3つの方法があります。

「フリーハンド」とは、特殊な器具・装置を用いずにインプラントを埋入する一次手術の方法には、「フリーハンド」「サージカルガイドプレート」「3Dダイナミックナビゲーションシステム」の3つの方法があります。

本院では、X-Guideが導入されたことにより、インプラント埋入の際には「フリーハンド」「サージカルガイドプレート」「3Dダイナミックナビゲーションシステム」の3つの手法から選択可能になりました。選択肢が広がり、より患者様のニーズに応えた治療を行うことが可能となりました。



ソーラーカーポートを視察した会員たち



矢ヶ崎康特別賞、矢ヶ崎康賞、活動賞、皆勤賞、精勤賞の受賞者の皆さん

歯学生共用試験 臨床実習前 OSCE を実施 公的化に向けてトライアル

形式で行われ、主に技能、態度を評価される試験である。受験者は、6つの課題を5分間ごとに場所を変えて行っていく。この試験は、2024年4月から、公的化することが決定している。今回のOSCEは、そのためのトライアルであり、昨年からの実施されている認定評価者の認定試験に合格した教職員や、認定標準模擬患者の認定試験の一次試験に合格した歯科衛生士が多く参加した。

試験の課題も公的化に向け、新しい課題が採用・出題され、全国共通の細かな試験室準備ガイドに従って準備を行い、多大な労力が費やされた。担当の教職員が前日の午後から、本館と病院診療室を会場として設営し、試験実施前点検を行った。当日も早朝から試験の準備を行い、試験後翌週の診療に支障の無い様、反省会や片付けまでを行った。今回は、総勢173人の教職員がそれぞれの担当部署での職務を遂行した。

受験者は、午前と午後のグループに分かれて診療にふさわしい服装で集合し、緊張しながらも、懸命にそれぞれの課題に取り組んでいた。試験終了後の合同反省会の際には、機構派遣監督者の愛知学院大学の鈴木一吉先生と朝日大学の北後光信先生より、順調に問題なく試験が実施されていたとの、総評をいただくことができた。

今回のOSCEは初めての公的化の試験となり、再試に関してもCBTとともに共用試験機構の管理となる予定である。学生さんたちのさらなる知識と技能の習得が期待される。

2023年度共用試験OSCEの実施において、休診などのご協力を頂いた病院の皆様、設置・実施にご協力戴いた大学設備関連・警備関連の職員の皆様、並びにスタッフとしてご参加戴いた教職員の皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。

OSCE小委員会委員長 中村浩志

人事異動
2月1日付
〔採用〕
神農 友子 病棟検査室検査師要職員
石井 和子 病棟検査室検査師要職員
大池 蘭 病棟検査室検査師要職員

2月17日(土) 第4学年85人を対象に、2023年度歯学生共用試験臨床実習前OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験)が機構派遣監督者2人、外部評価者6人をお迎えして実施された。

OSCEは、歯科医師としての資格のない学生が臨床実習において医療行為を行うために事前に能力(態度・技術・知識)の適正を評価するための目的で実施されている。模擬患者さんとマネキン模型を用いた模擬診療

第1学年の授業科目である「情報リテラシー」では、各自に購入してもらった松本歯科大学特別仕様の最新のノート型コンピュータを用いて、情報の取り扱いの注意点、コンピュータスキルの習得や情報の活用方法に関する授業を行っている。

12月13日(水)、キャンパスイン101教室において、今までの学習成果を披露する発表会が1時限目から3コマを使い、約4時間にわたって70人の学生が発表した。

今年度は、「自分の故郷の良」ところをテーマとして、発表の準備を行って来た。大学に入学して初めて地元を離れた学生さんも多いため、自分の故郷の良いところを再確認する意味で、自分の育った地元について

再活性化すること、そのウイルスから放出された蛋白質が歯周組織細胞からの炎症性サイトカインの産生を強く誘導することを説明された。炎症と骨吸収が伴う新規の予防・治療法の開発につながることを、これまでのインフルエンザ、AIDSおよびCOVID-19等の研究を行った。

歯学生体ゴルフ競技女子個人3位入賞
衛生学院・小林絵季さんが県私学教育協会から表彰

日本大学歯学部・今井健一教授が講演 歯周疾患発症における口腔ウイルスの存在意義

12月8日(金)、日本大学歯学部感染症免疫学講座教授の今井健一先生をお迎えして大学院セミナーが開催された。今井先生は、朝日大学歯学部卒業、明海大学大学院修了、名古屋市立

大学を経て日本大学歯学部にて、教育・研究に携わってこられた。日本歯科医学連合新型コロナウイルス感染症対策チーム委員、日本歯科医師会「新たな感染症を踏まえた歯科診療の指針」策定タスクチーム委員なども務められてきた。

口腔がヘルペスウイルスに加え、コロナウイルスにとっても増殖の場かつリザーバーとなっていること、さらに食中毒の原因であるノロウイルスも唾液腺で増殖、唾液で伝播することが昨年『Nature』に報告されるなど、近年、口腔における

ウイルスの存在が注目されている。今井先生は、これまでの「宿主-寄生体相互作用」に加え、「細菌-ウイルスの相互作用」の解明が、病気の理解とそれに伴う新規の予防・治療法の開発につながることを、これまでのインフルエンザ、AIDSおよびCOVID-19等の研究を行った。

歯周炎の発症にウイルスが関与しているのでは?との仮説のもと研究を進めてきた結果、歯肉B細胞に感染したエプスタイン・バーウイルス(EBV)ヒトヘルペスウイルス4型)が破骨細胞分化を誘導し骨吸収を促進する興味深い実験結果を見出した。さらに、歯周病原菌 Porphyromonas gingivalis が産生する酪酸が潜伏ウイルスを

再活性化すること、そのウイルスから放出された蛋白質が歯周組織細胞からの炎症性サイトカインの産生を強く誘導することを説明された。炎症と骨吸収が伴う新規の予防・治療法の開発につながることを、これまでのインフルエンザ、AIDSおよびCOVID-19等の研究を行った。



ご講演いただいた今井教授

歯周炎の発症にウイルスが関与しているのでは?との仮説のもと研究を進めてきた結果、歯肉B細胞に感染したエプスタイン・バーウイルス(EBV)ヒトヘルペスウイルス4型)が破骨細胞分化を誘導し骨吸収を促進する興味深い実験結果を見出した。さらに、歯周病原菌 Porphyromonas gingivalis が産生する酪酸が潜伏ウイルスを

再活性化すること、そのウイルスから放出された蛋白質が歯周組織細胞からの炎症性サイトカインの産生を強く誘導することを説明された。炎症と骨吸収が伴う新規の予防・治療法の開発につながることを、これまでのインフルエンザ、AIDSおよびCOVID-19等の研究を行った。

歯周炎の発症にウイルスが関与しているのでは?との仮説のもと研究を進めてきた結果、歯肉B細胞に感染したエプスタイン・バーウイルス(EBV)ヒトヘルペスウイルス4型)が破骨細胞分化を誘導し骨吸収を促進する興味深い実験結果を見出した。さらに、歯周病原菌 Porphyromonas gingivalis が産生する酪酸が潜伏ウイルスを

写真部ギャラリー ~今月の一枚~



『さあ、本番!』 撮影:森永 貴美子(第1学年)

一日の始まりの記録です。去年10月の「松濤祭」で私たちの学年は悩んだ末にチュロスの店を出しました。でも作るのは全員初めて。不安でしたが皆で頑張りました。結果は完売。よい思い出になりました。

Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



twitter



Instagram



facebook

26日(火) 第33回歯科衛生士国家試験 合格発表
22日(金) 一般選抜(Ⅱ期) 共通テスト利用選抜(Ⅱ期) 合格発表
19日(火) 一般選抜(Ⅰ期) 共通テスト利用選抜(Ⅰ期) 合格発表

3月行事予定
3日(日) 第33回歯科衛生士国家試験
4日(月)~6日(水) 定期試験(衛生学院第2学年)
5日(火) 衛生学院卒業証書授与式
15日(金) 第17回歯科医師国家試験 合格発表



パワーポイントでまとめたデータをプレゼンする学生

日本全国各地のほか、台湾・韓国・中国などから集まった学生たちの発表は、郷土色豊かな幅広い内容となり、それぞれの発表に大きな拍手が送られていた。プレゼンテーションも各自のオリジナリティを感じさせるものであり、留学生も自分の伝えたい内容を堂々と日本語で発表することができた。

昨夏の第55回全日本歯科学学生総合体育大会夏期部門のゴルフ競技に出場し、女子個人3位と大健闘した衛生学院第2学年の小林絵季さんが、長野県私学教育協会から表彰されることになり、12月21日(木)に衛生学院で表彰伝達式が行われた。笠原悦男衛生学院院长がその功績をたたえて、表彰状と記念品を手渡した。

小林さんの活躍で弾みをつけた本学ゴルフ部は、他の女子選手も大いに奮闘して女子団体で3位に入賞し、男女総合成績を4位に押し上げる原動力となった。小林さんは「ありがとうございます。思っていた以上にいい成績が残せてよかったです」と感謝していた。



表彰を喜ぶ小林さん

3月行事予定
3日(日) 第33回歯科衛生士国家試験
4日(月)~6日(水) 定期試験(衛生学院第2学年)
5日(火) 衛生学院卒業証書授与式
15日(金) 第17回歯科医師国家試験 合格発表

受験生の皆さんへ
見せてほしい 君の個性 君の情熱
一般選抜(Ⅲ期)
※共通テスト利用選抜(Ⅲ期)
※共通テスト利用選抜の、本学個別試験はありません。
●試験日 3月19日(火)
●出願期間 2月26日(月)~3月14日(木)
●試験場 本学・東京・大阪
■お問い合わせ■
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室
www.mdu.ac.jp